

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	空		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 15日		～ 令和7年 3月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 15日		～ 令和7年 3月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 9名(1名産休中)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	これまで年度末にアンケートをお配りし、翌年度一年間の活動希望をお伺いしておりましたが、子ども達はリアルタイムで興味関心が変わる事も想定される為、年4回のアンケートに変更を行った所、活動の幅が広がり旬の取り組みなども取り入れられる様になりました。	アンケートは、保護者様とお子様から両方の希望をご記入頂く事と、ご家族での取り組みも(良かった・上手いかなかった)ご記入頂き活動支援に活かしています。
2	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている。	保護者様からのヒアリング等により、保育所・相談支援員・療育センター主治医・子ども総合センターとの連携や情報交換を行い積極的にケース会議等にも参画し、その都度記録を取り共有に努めています。	受診同行支援や定期的な会議等の際には、現状報告書を立ち上げ現段階の様子をお伝え出来るよう日々の記録にも配慮しております。
3	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。	送迎時や保護者をお招きした活動時において、その都度ヒアリング等を行ったり、茶話会での情報共有に適宜対応出来るよう体制を整え、ご周知頂いております。	お子様の状況に応じて、臨機応変な対応を行い、保護者様のレスパイトケアとして事業所訪問等も薦めております。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切でないと感じられることがある。	開所から長く療育支援を行っている利用者が殆どであり、心身共に成長しスペース的にも狭く感じる事がある為、お子様に合わせた過ごしやすい環境の提供出来るよう間仕切りやパーティション等で対応しております。	各部屋の使い方等利用者周知を行い、自身の落ち着く居場所を見つけられるお手伝いも行い、いずれは活動スペース確保を視野に入れ、事業所移転も考えているところであります。
2	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされていない部分がある。	賃貸物件の為、バリアフリーへの対応は難しく、段差を認識してもらえようとして視覚支援等配慮を入れています。段差がある事でスペースの区切りができ、各部屋の意図を認識できるよう支援をしています。	活動時や部屋移動の際は細心の注意をはらい、声掛けや共に移動するなどの配慮を行って参ります。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会を設定することが難しい。	日程を決めアポイントを取り交流を持つ事へのためらいがあるご家庭もある為、積極的に計画は行っておりませんが、公共の場での活動等は行っており、同世代のお子様と同じスペースで関わりを持てるよう配慮しております。	今後も公共の場での活動を継続し、図書館などのルール設定がある場などで地域の方々と共にルールが守れるよう取り組みを行って参ります。